



貴重なメダカ大切に育てて

水 明苑の利用者らが育てた野生メダカの贈呈式が6月1日(木)に水明苑で行われ、町内3小学校の5年生の代表児童が野生メダカを受け取りました。野生メダカは環境省が絶滅危惧種に指定している希少なメダカで、水明苑では昨年、仙台市の会社員内山晴信さんが町内で保護したメダカ20匹を譲り受けて、施設の利用者らがえさやりなどを行い繁殖を続けてきました。その結果メダカは1年で600匹に増え、各小学校で毎年5年生が理科の学習の一環としてメダカの飼育を行っていることから今回各校へ20匹ずつ贈呈しました。メダカを受け取った児童は「貴重な生き物だと聞いたので、大切に育てたいです」と話していました。

大きく育ててね

大 石田南小学校の6年生児童14名が5月30日(火)に自然薯の植え付け体験を行いました。これは大石田町新作物開発研究会(海藤明会長)の協力で毎年行われているもので、今年は児童がより観察しやすいようにと研究会のメンバーが新しく整備した学校のすぐそばの畑で植え付けを行いました。この日は研究会のメンバーのほか、ウイルスフリーの苗を研究会に提供している村山産業高校農業部の生徒も参加し、児童らに植え付けを指導しました。

児童らは畑に穴を掘って種芋を横向きに植えて、その上から土をやさしくかぶせていました。学校では秋に収穫体験を行い、児童が自分たちで調理した自然薯料理を楽しむ収穫イベントを行う予定です。



ブーメラン作り楽しむ

山 形市などの小学生らが6月10日(土)に町を訪れ、福祉会館で手作りのブーメラン作りを楽しみました。これはこの日予定されていた「トムソーヤの冒険in最上川」が悪天候により中止となったことを受けて行われたもので、山形市内などから参加した「寺子屋子ども大学」(松尾剛次山形大学人文学部教授主宰)の小中学生16名が発泡スチロール製のブーメラン作りを楽しみました。子どもたちは大石田アウトドアクラブ遊Be隊(柴田和徳隊長)のメンバーから指導を受けながら、発泡スチロールの板に型をあててブーメランを切り出し、形を整えた後、福祉会館のロビーで飛ばして出来ばえを確認していました。参加した児童は「晴れたら外で作ったブーメランを思いっきり飛ばしてみたいです」と話していました。



高い水防技術競い合う

第 11回東北水防技術競技大会が5月28日(日)に秋田市の雄物川河川敷で開催され、山形県代表として参加した大石田町水防団(消防団)が見事な水防工法を披露しました。この大会は水防に対する意識や水防技術の向上を図るため国土交通省が主催して毎年行われているもので、東北各県から選ばれた6つの水防団(消防団)が水防工法の素早さや正確性などを競いました。競技は、土のうを積み上げて堤防の決壊を防ぐ「月の輪工」と、堤防法面の崩壊を防ぐためにシートを張り特殊な結び方でロープを結び固定する「シート張工」の2種目が行われ、大石田町水防団(消防団)は奨励賞(第3位)に入賞しました。第12回大会は来年度、大石田町を会場に開催され、引き続き大石田町水防団が大会に出場する予定です。



シート張工



月の輪工

伝統農法の手植えに挑戦

町 内3つの小学校の5年生の児童が手植えによる田植えを体験しました。このうち大石田北小では5月19日(金)にJAみちのく村山青年部(草刈一将大石田地区委員長)の協力で、部員の星川祐一さんが管理する田で「はえぬき」の苗植えを行いました。大石田小では5月20日(土)に小林征雄さんの田で「つや姫」の苗植えが学年行事として行われ、児童とともに保護者も田んぼに入り、親子で田植えを楽しみました。また、5月31日(水)には大石田南小でも田植えが行われ、農地・水・環境保全組織田沢部会(森秀雄会長)の協力で、指導する小内英徳さんの田に「つや姫」の苗を植えました。

児童たちは初めて入る田んぼの感触に戸惑いながら、泥だらけになって苗を植えつけていました。各小学校では秋に稲刈りを行い、収穫した米を味わうことにしています。



大石田南小学校



大石田北小学校



大石田小学校